

# 高齢化する茨城の農業 ……………

## I 調査の概要

### 1. 調査の目的

茨城県統計調査条例(昭和36年茨城県条例第16号)及び茨城県農業基本調査規則に基づき、本県農業の実態を把握し、農業経営の改善と農林行政施策を推進していくための基礎資料とすることを目的としている。

### 2. 調査の期日

昭和58年2月1日

### 3. 調査の範囲

この調査は、昭和58年2月1日現在で、県内に所在する農業事業体(農家及び農家以外の農業事業体)を対象とする。

### 4. 調査の事項

この調査は、次に掲げる事項について調査した。

- (1) 世帯員
- (2) 土地
- (3) 収穫面積・果樹園面積
- (4) 施設園芸
- (5) しいたけ栽培
- (6) 家畜・家きん
- (7) 農業機械

### 5. 調査の方法

農業基本調査員が担当区域内のすべての農業事業体に調査票を配布し、各事業体が記入する自計申告による。

### 6. 調査の系統

県一市町村一農業基本調査員

その農家の家計が農業所得と兼業所得のどちらに主として依存しているかによって次のように区分する。

- 第1種兼業農家  
自家農業を主とする兼業農家
- 第2種兼業農家  
自家農業を従とする兼業農家

### (2) 農家以外の農業事業体

上記1の(1)に規定する世帯以外の農業事業体をいう。学校、試験場、農業協同組合及び会社などが該当する。

### 2. 農家人口など

#### (1) 農家人口

農家人口は、原則として住居と生計を共にしている農家の世帯員数のことであり、出かせぎに出ている人、血縁や姻戚関係がなくとも生計を共にしている人は含めるが、勉学、就職のため、よそに独立して住んでいる者は除く。

#### (2) あとつぎ予定者

満16歳以上の世帯員のうち、その家を継ぐ予定の者をいい、農業の後継者といった狭い意味のものではない。

#### (3) 農業従事者

満16歳以上の世帯員のうち、調査期日前1年間に自家農業に従事した者をいう。

### 3. 経営耕地

#### (1) 経営耕地

調査日現在、農家が経営している耕地(田、畑、樹園地)のことをいう。一時的な休閒地及び借入地を含む。

#### (2) 田

耕地のうち、水をたたえるためのけいはんがある土地をいう。ただし、もとは田であって、けいはんが残っていても果樹など永年性植物を栽培している耕地は田とせず樹園地とした。

#### (3) 稲以外の作物だけを作った田

稲を作らず、麦、いも、豆、野菜類または青刈稲などを作った田をいう。56年以前は「その他の田」として調査した。

#### (4) 畑

耕地のうち、田と樹園地を除いたもので、普通畑、牧草専用地などをいう。

#### (5) 牧草専用地

牧草だけを(輪作などは行わず)継続的に施肥などの肥培

## II 用語の定義

### 1. 農業事業体

#### (1) 農家

昭和58年2月1日現在の経営耕地が10アール以上の農業を営む世帯または経営耕地が10アール未満でも調査期日前1年間の農産物における総販売額が10万円以上あった世帯をいう。

#### (ア) 専業農家

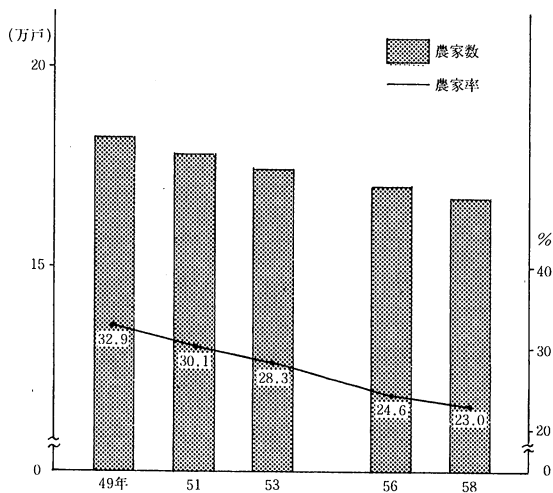
世帯員の中に兼業従事者が1人もいない農家をいう。

#### (イ) 兼業農家

世帯員の中に兼業従事者が1人以上いる農家をいい、

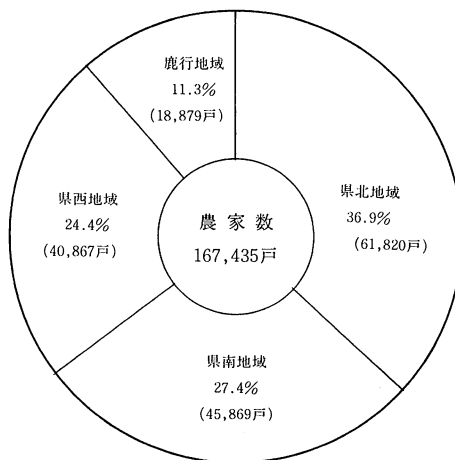
茨城県農業基本調査結果から

図一 農家数と農家率の推移



注) 農家率=農家数÷世帯数(各年の2月1日現在の常住人口調査による。)

図二 地域別農家数



管理をしている土地をいう。

(6) 樹園地

果樹、茶、桑、たけのこ、こうぞ、みつまたなどの作物を規則的または連続的に栽培している土地で、同一種類が1アール以上まとまっているものをいう。

(7) その他の樹園地

たけのこを栽培している竹林、こうぞ、みつまたなどの栽培地または庭園用、観賞用として販売を目的の樹木を、数年(5年以上)にわたって栽培している土地をいう。

4. その他

(1) 本書に掲げた数値は単位未満の四捨五入等により内訳と総数が一致しない場合がある。

(2) 表中に使用した符号は、次のとおりである。

- 「0」 零のもの、または掲載単位未満のもの
- 「…」 調査を欠くもの、または不詳のもの
- 「△」 比較減のもの

表一 専業・兼業別農家数

区 分	農 家 数	専 業	兼 業		
			計	第1種兼業	第2種兼業
昭 和 49 年	182,509 <sup>戸</sup>	26,798 <sup>戸</sup>	155,711 <sup>戸</sup>	68,051 <sup>戸</sup>	87,660 <sup>戸</sup>
51	178,760	26,471	152,289	62,305	89,984
53	175,300	26,775	148,525	56,476	92,049
56	170,850	24,348	146,502	50,078	96,424
58	167,435	22,502	144,933	46,738	98,195
増 減 数					
49 ~ 51	△ 3,749	△ 327	△ 3,422	△ 5,746	2,324
51 ~ 53	△ 3,460	304	△ 3,764	△ 5,829	2,065
53 ~ 56	△ 4,450	△ 2,427	△ 2,023	△ 6,398	4,375
56 ~ 58	△ 3,415	△ 1,846	△ 1,569	△ 3,340	1,771
増 減 率					
51 - 49	△ 2.1%	△ 1.2%	△ 2.2%	△ 8.4%	2.7%
53 - 51	△ 1.9	1.1	△ 2.5	△ 9.4	2.3
56 - 53	△ 2.5	△ 9.1	△ 1.4	△ 11.3	4.8
58 - 56	△ 2.0	△ 7.6	△ 1.1	△ 6.7	1.8

II 調査結果の概要

1. 農家数

(1) 農家数

昭和58年2月1日現在の本県の農業事業体数は167,620である。このうち、農家数は167,435戸で前回56年調査(170,850戸)に比べて2.0%(3,415戸)減少した。(表一)

表一 2 専業・兼業別地域別農家数及び構成比

区 分	総 数	構 成 比	専 業		第 1 種 兼 業		第 2 種 兼 業	
			専 業	構 成 比	第 1 種 兼 業	構 成 比	第 2 種 兼 業	構 成 比
県 計	167,435 <sup>戸</sup>	100.0%	22,502 <sup>戸</sup>	13.4%	46,738 <sup>戸</sup>	27.9%	98,195 <sup>戸</sup>	58.7%
県 北 地 域	61,820	100.0	8,128	13.2	15,166	24.5	38,526	62.3
鹿 行 地 域	18,879	100.0	4,640	24.6	5,169	27.4	9,070	48.0
県 南 地 域	45,869	100.0	5,003	10.9	14,457	31.5	26,409	57.6
県 西 地 域	40,867	100.0	4,731	11.6	11,946	29.2	24,190	59.2

農家数は年々減少し、世帯数が増加しているため、農家率は23.0%と今までに最も低い割合となった。(図一 1)

また、地域別にみた農家数は県北地域が61,820戸で全体の36.9%を占め、次いで、県南地域が45,869戸(27.4%)、県西地域が40,867戸(24.4%)、鹿行地域が18,879戸(11.3%)となり、各地域とも農家数が減少した。(図一 2)

〔49年以降の推移〕

49年以降各2年毎に2%前後の減少が続き、今回までに15,074戸(8.3%)減少した。

(2) 経営耕地面積規模別農家数

農家数を経営耕地面積規模別にみると、前回(56年)と同

様に100～150a未満層が20.7%(前回21.1%)と最も多く、次いで70～100a未満層が15.3%(前回15.3%)、150～200a未満層が13.5%(前回13.8%)となり、この3層で49.5%(前回50.2%)を占めている。

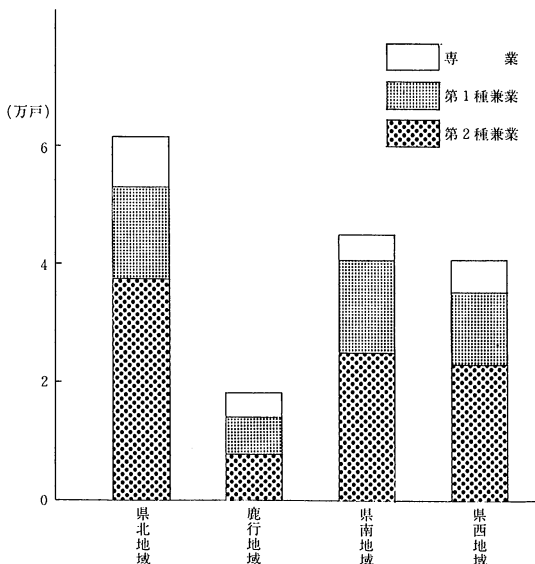
〔49年以降の推移〕

経営耕地面積規模別農家の増減率を49年と比べると、200a未満の農家は年々減少したが200a～300a未満の農家は6.5%、300a以上の農家は78.8%増加し、大規模農家が増加している。

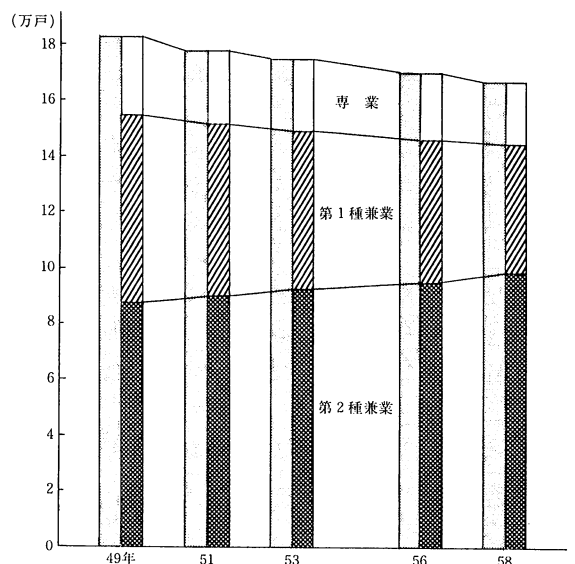
(3) 専業・兼業別農家数

農家数を専業・兼業別にみると、専業農家は22,502戸(13.4

図一 3・(1) 専業・兼業別地域別農家構成比



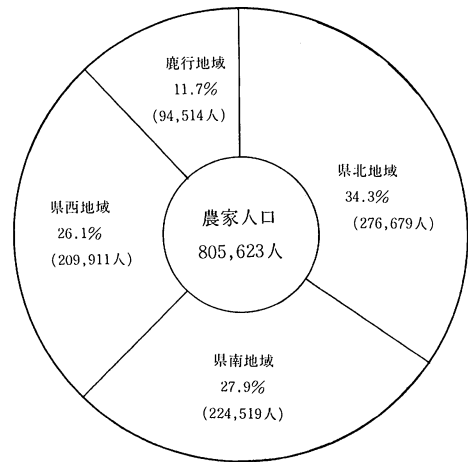
図一 3・(2) 専業・兼業別農家数の推移



表一三 農家人口

区分	農家人口	総人口	農家人口率	農家1戸 当り世帯員
昭和49年	903,903	2,264,514	39.9%	5.0
51	874,279	2,354,933	37.1	4.9
53	852,204	2,428,012	35.1	4.9
56	827,114	2,568,377	32.2	4.8
58	805,623	2,643,394	30.5	4.8

図一四 地域別農家人口の割合



%), 農業を主とする第1種兼業農家は46,738戸(27.9%), 第2種兼業農家は98,195戸(58.7%)となった。

総農家に占める専業農家の割合は、前回と比べて0.9ポイント、第1種兼業農家では1.4ポイント減少したが、第2種兼業農家では2.3ポイント増加した。

次いで増減数・増減率について比べると、専業農家が1,846戸(7.6%), 第1種兼業農家が3,340戸(6.7%)減少し、第2種兼業農家は1,771戸(1.8%)増加した。(表一1)

地域別にみると、専業農家の割合は前回同様鹿行地域の24.6%が最も高く、次いで県北地域の13.2%、県西地域の11.6%、県南地域の10.9%となっている。(表一2、図一3・(1))  
〔49年以降の推移〕

専業・兼業別農家数を49年と比べると、専業農家が4,296戸(16.0%), 第1種兼業農家が21,313戸(31.3%)減少したが第2種兼業農家は10,535戸(12.0%)増加し全農家の58.7%を占めた。(図一3・(2))

## 2. 農家人口

農家人口は805,623人で前回(56年)と比べ21,491人(2.6%)減少した。男女別にみると、男子が397,313人(49.3%)で女子が408,310人(50.7%)となり、女子が男子より10,997人多くなっている。

また、農家1戸当りの平均人員は4.8人で前回と同じである。(表一3)

次に、地域別に農家人口の割合をみると、県北地域が34.3%、県南地域が27.9%、県西地域が26.1%、鹿行地域が11.7%となっている。(図一4)

〔49年以降の推移〕

農家人口を49年と比べると、98,280人(10.9%)減少し、総人口は増加しているため農家人口の割合は30.5%と今までに最も低い割合となった。(図一5)

## 3. 農業従事者

調査期日前1年間に農業に従事した人は428,107人で前回(56年)に比べて6,701人(1.5%)減少した。これを男女別にみると、男子は222,719人(52.0%)、女子は205,388人(48.0%)となっている。

従事日数別にみると、「1~29日」が115,130人(26.9%)、「30~59日」が88,150人(20.6%)、「60~149日」が79,009人(18.4%)、「150日以上」が145,818人(34.1%)となっている。

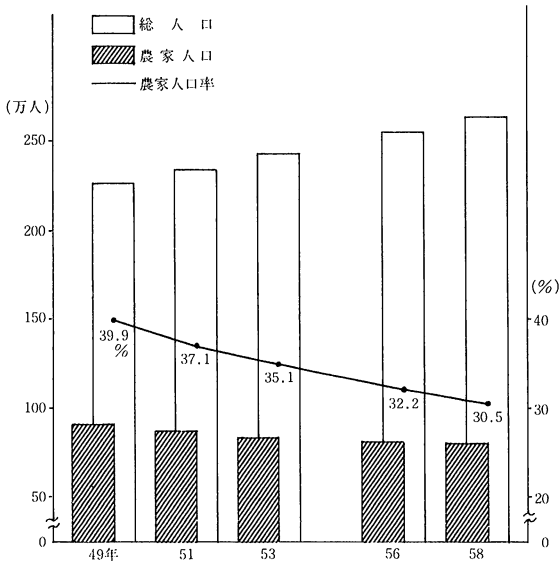
更に、従事日数別に前回と比べると、「1~29日」では2,264人(2.0%)、「30~59日」では2,767人(3.2%)増加し、「60~149日」では1,264人(1.6%)、「150日以上」では10,468人(6.7%)減少した。

〔49年以降の推移〕

従事日数別構成比を49年と比べると、「1~29日」が9.3ポイント、「30~59日」が3.7ポイント増加し、「150日以上」が12.4ポイント減少した。

これを従事日数別農業従事者を49年と比べると、「1~29日」が34,518人(42.8%)、「30~59日」が10,884人(14.1%)増加し、「60~149日」が7,608人(8.8%)、「150日以上」が66,597人(31.4%)減少した。

図一五 農家人口の推移



これは「農用機械」の増加等により農業従事日数が減少していることを示している。

#### 4. あとつぎ予定者

あとつぎ予定者のいる割合は64.4%であり、男子あとつぎ予定者のいる割合は56.3%である。

〔49年以降の推移〕

男子のあとつぎ予定者を就業状態別に49年と比べると、「農業が主」の人が8,516人(72.0%)、「農業だけ」の人が3,802人(29.1%)、この2層で12,318人減少したが「兼業が主」の人は8,450人(25.7%)と大幅に増加した。

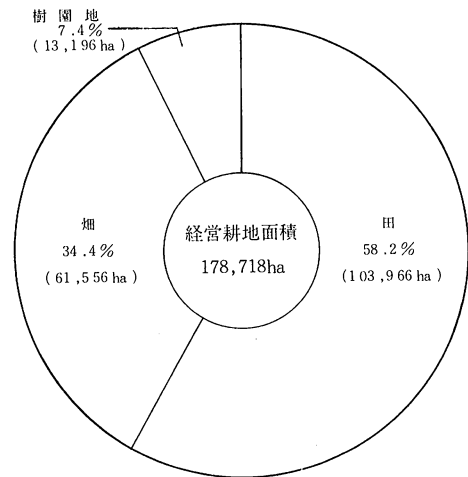
次いで男子のあとつぎ予定者の就業状態別構成比を49年と比べると、「農業が主」の人が8.1ポイント、「農業だけ」の人が3.0ポイント減少したが「兼業が主」の人が11.6ポイント増加し、あとつぎ予定者全体の43.8%を占めた。

#### 5. 経営耕地面積

経営耕地面積は178,718haで前回と比べて2,959ha(1.6%)減少した。この内訳をみると、田が103,966haで833ha(0.8%)、畑が61,556haで1,800ha(2.8%)、樹園地が13,196haで326ha(2.4%)減少した。

経営耕地のうち、田は58.2%、畑は34.4%、樹園地は7.4%を占めている。田の内訳を前回と比べると、「普通田」が

図一六 経営耕地面積



2,577ha(3.2%)、「陸田」が1,833ha(16.8%)、「過去1年間全く作付けしなかった田」が417ha(4.9%)、「稲以外の作物だけを作った田」が3,994ha(100.7%)と大幅に増加した。

(図一六)

畑は前回と比べると、「普通畑」が1,822ha(3.2%)、「牧草専用地」が34ha(1.8%)減少し、「作付けしなかった畑」が56ha(1.1%)増加した。

樹園地は前回と比べると、「果樹園」が51ha(0.7%)増加し、「茶園」が35ha(5.2%)、「桑園」が286ha(6.3%)減少した。

次に、経営耕地面積を地域別にみると、田の割合が一番高いのは県西地域の65.2%、次いで県南地域の62.9%となっている。畑では鹿行地域の50.8%が最も高く、次いで県北地域の37.8%となっている。

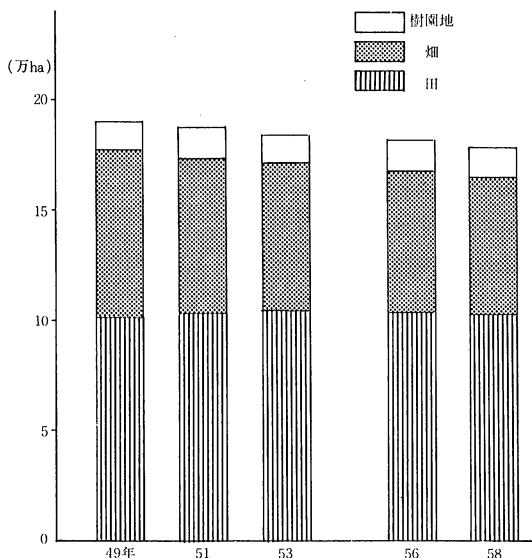
また、1戸当たりの経営耕地面積は前回と比べて0.01ha増加して1.07haとなった。

〔49年以降の推移〕

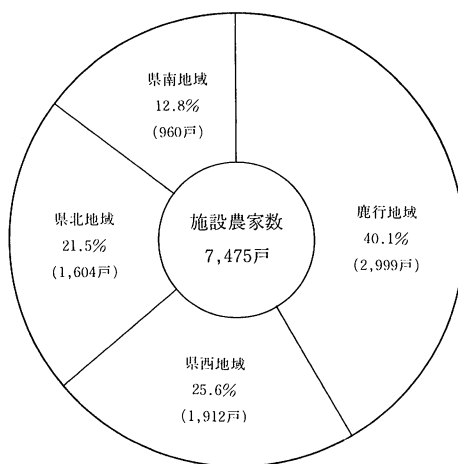
49年と比べると、経営耕地面積が11,310ha(6.0%)減少した。その内訳をみると、畑が11,389ha(15.6%)、樹園地が1,100ha(7.7%)減少したが田は1,179ha(1.1%)増加した。

(図一七)

図一七 経営耕地面積の推移



図一八 地域別施設農家数



6. 作物別収穫面積

収穫面積は159,580haで前回(56年)に比べて3,738ha(2.3%)減少した。これを種類別にみると、工芸作物が2,885ha(17.3%)、野菜類が1,169ha(5.6%)、稲が2,736ha(2.8%)減少したが飼料用作物が886ha(32.4%)、いも類が1,230ha(18.0%)、豆類が620ha(13.5%)、花き類が53ha(5.5%)増加した。(49年以降の推移)

49年と比べると、収穫面積が19,055ha(10.7%)減少した。その内訳をみると、工芸作物が6,772ha(32.9%)、野菜類が4,778ha(19.5%)、稲が13,195ha(12.2%)、麦が443ha(3.3%)減少したが飼料用作物が1,685ha(86.9%)、花き類が387ha(60.9%)、いも類が2,478ha(44.3%)、豆類が1,583ha(43.4%)増加した。

7. 施設園芸の施設のある農家数と面積

施設園芸の施設のある農家数は7,475戸となり、前回(56年)に比べて709戸(8.7%)減少した。地域別に施設園芸の施設のある農家数及び施設面積をみると、鹿行地域が最も高く、それぞれ40.1%、46.2%を占めている。(図一八、九)

更に、地域別に増減率をみると、県北地域が11.3%増加したが鹿行地域が19.7%、県南地域が7.0%、県西地域が3.3%減少した。

次に、施設面積は116,722 a (3,530,842坪)となり、前回と比べて5,030 a (152,165坪, 4.1%)減少した。これを地域別に前回と比べると、県北地域が23.4%増加したが鹿行地域が13.6%、県南地域が4.9%、県西地域が0.1%減少した。加温施設のある農家は2,359戸で施設農家数の31.6%を占め、加温施設面積は32,315 a (977,520坪)で施設面積の27.7%を占めている。

施設農家1戸当たりの施設面積は15.6 a (472.4坪)となり前回に比べて0.7 a (22.4坪, 4.7%)増加した。

これを地域別にみると、鹿行地域が18.0 a (543.8坪)と最も多く、次いで県西地域の16.5 a (500.4坪)、県北地域の13.2 a (398.5坪)、県南地域の10.5 a (316.5坪)の順になっている。

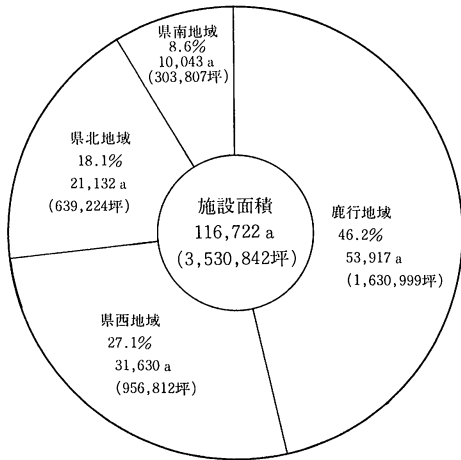
(49年以降の推移)

49年と比べると、施設農家数が368戸(4.7%)減少したが面積は42,444 a (1,283,938坪, 57.1%)、1戸当たりの面積は6.1 a (186.0坪, 64.2%)増加した。

8. しいたけ栽培農家数と施設面積

しいたけ栽培農家数は2,532戸となり、前回(56年)に比べて70戸(2.7%)減少し、そのほだ木本数は8,809,810本となり、前回に比べて304,810本(3.3%)減少した。

図一〇 地域別施設面積



地域別にみると、県北地域の割合が高く農家数で54.4%、ほだ木本数で60.8%を占めている。

また、しいたけ栽培施設農家は1,468戸、その面積は1,816 a (54,947坪)となり、前回と比べて栽培施設農家数が17戸(1.2%)、施設面積が227 a (6,867坪、14.3%)増加した。

地域別にみると、これも県北地域が施設農家については48.1%、施設面積についても44.8%と高率を示している。なお1戸当たりのほだ木本数は3,479本、1戸当たりの施設面積は1.2a (37.4坪)となっている。

### 9. 果樹栽培農家数と面積

果樹栽培延農家数は23,141戸で前回(56年)と比べると200戸(0.9%)減少した。これを種類別にみると、ももが24戸(30.8%)、みかんが18戸(7.0%)減少し、りんごが15戸(14.2%)、かきが148戸(10.0%)増加した。

果樹の栽培面積は7,827haで前回より51ha(0.7%)増加した。

種類別にみると、ももが7ha(50.0%)、みかんが8ha(18.2%)減少し、りんごが7ha(17.9%)、かきが42ha(12.8%)、なしが65ha(4.9%)増加した。

当県の主な果樹であるくりとなしの栽培農家数を地域別にみると、くりは県北地域が55.1%と最も高く、次いで県南地域の39.4%と続き、この両地域で全体の94.5%を占め、

なしは県西地域の48.2%が最も高く、次いで県南地域の35.9%と続き、この両地域で全体の84.1%を占めている。

更に、栽培面積を地域別にみると、くりは県北地域の52.4%が最も高く、次いで県南地域の42.8%と続き、この両地域で全体の95.2%を占め、なしは県西地域の46.0%が最も高く、次いで県南地域の41.6%と続き、この両地域で全体の87.6%を占めている。

### 〔49年以降の推移〕

栽培延農家数を49年と比べると、1,681戸(6.8%)減少した。

種類別にみると、ぶどうが140戸(26.4%)、うめが332戸(17.2%)、かきが137戸(9.2%)増加したがももが91戸(62.8%)、みかんが236戸(49.6%)、りんごが43戸(26.2%)減少した。次いで、栽培面積を49年と比べると、237ha(2.9%)減少した。種類別にみると、ぶどうが93ha(67.9%)、かきが88ha(31.2%)、なしが217ha(18.3%)増加したがももが11ha(61.1%)、みかんが34ha(48.6%)、くりが549ha(9.2%)減少した。

### 10. 家畜・家きんの飼養農家数と頭羽数

飼養戸数は乳用牛が2,108戸で前回(56年)に比べて190戸(8.3%)、肉用牛が4,416戸で219戸(4.7%)、豚が6,679戸

図一〇 家畜・家きんの飼養農家数

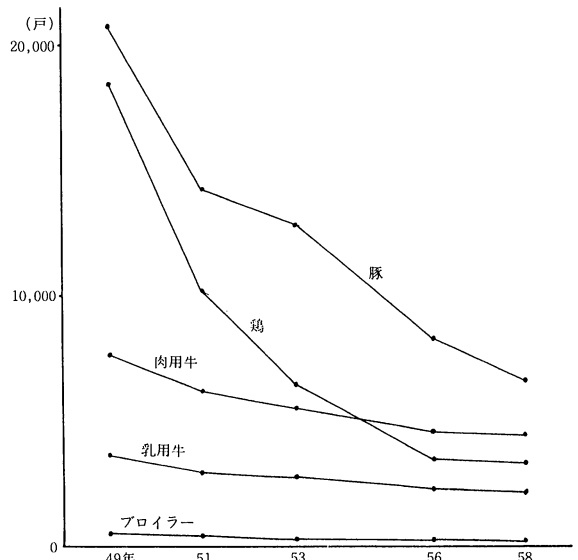


図-11・(1) 家畜・家さんの飼養頭羽数

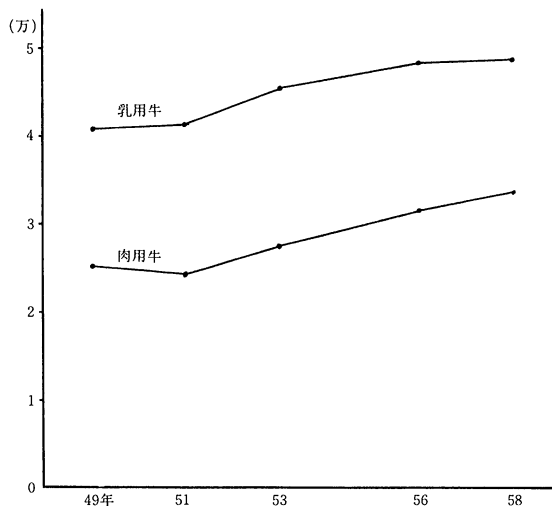
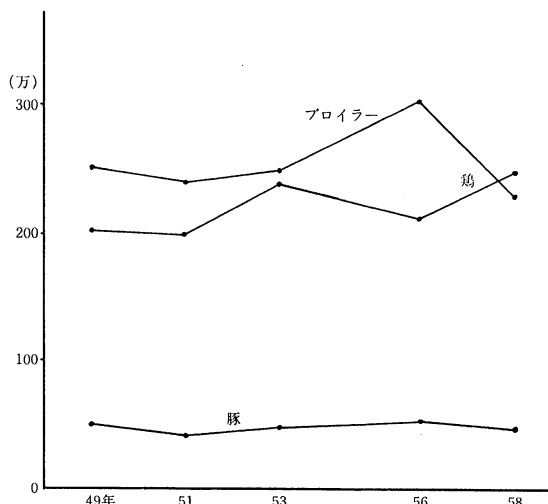


図-11・(2) 家畜・家さんの飼養頭羽数



で1,644戸(19.8%)、鶏が3,250戸で272戸(7.7%)、ブロイラーが180戸で99戸(35.5%)減少した。

飼養頭羽数は豚が498,166頭で前回に比べ26,430頭(5.0%)、ブロイラーが2,366,000羽で670,070羽(22.1%)減少したが乳用牛は48,738頭で626頭(1.3%)、肉用牛は33,844頭で2,668頭(8.6%)、鶏は2,474,167羽で365,565羽(17.3%)増加した。

また、1戸当たりの飼養頭羽数は乳用牛が23.1頭で前回に比べ2.2頭(10.5%)、肉用牛が7.7頭で1.0頭(14.9%)、豚が74.6頭で11.6頭(18.4%)、鶏が761.3羽で162.6羽(27.2%)、ブロイラーが13,144.4羽で2,262.4羽(20.8%)増加し、畜産の経営規模が拡大している。

なお、豚と鶏の飼養頭羽数を地域別にみると、豚は県南地域が34.3%と最も高く、県西地域の22.3%、鹿行地域の22.0%、県北地域の21.4%の順になり、鶏は県北地域が39.7%と最も高く、県西地域の30.2%、県南地域の16.0%、鹿行地域の14.1%の順になっている。

〔49年以降の推移〕

49年と比べると、乳用牛、肉用牛、豚、鶏、ブロイラー飼養農家数が各々1,478戸(41.2%)、3,209戸(42.1%)、14,000戸(67.7%)、15,275戸(82.5%)、363戸(66.9%)減少した。

飼養頭羽数は乳用牛が7,836頭(19.2%)、肉用牛が8,958

頭(36.0%)、鶏が453,149羽(22.4%)増加した。

次いで、1戸当たりの飼養頭羽数を49年と比べると、乳用牛が11.7頭(102.6%)、肉用牛が4.4頭(133.3%)、豚が50.4頭(208.3%)、鶏が652.2羽(597.8%)、ブロイラーが8,526.8羽(184.7%)増加した。経営規模が大幅に拡大している。(図-10、11・(1)、11・(2))

#### 11. 農用機械の所有台数

所有台数は前回(56年)と比べると、「農用トラック」14,757台(33.4%)、「ハーベスター」3,018台(22.2%)、「農用トラクター」7,924台(20.8%)、「コンバイン」4,389台(14.0%)増加したが「動力脱穀機」13,393台(20.6%)、「米麦用乾燥機」6,117台(7.6%)減少した。

なお、「動力脱穀機」の減少は農家労働力省力化のため「ハーベスター」及び「コンバイン」に切り替えたものと考えられる。

〔49年以降の推移〕

49年と比べると、「農用トラクター」686.9%、「動力田植機」が347.2%、「コンバイン」337.8%、「農用トラック」94.0%、「育苗機」85.8%、「動力刈取機」53.1%増加したが「動力脱穀機」54.7%、「米麦用乾燥機」22.2%、「動力耕うん機」8.4%と減少した。

(統計課・農林経済グループ)